

琵琶湖定点定期観測

大前信輔・前河孝志・森田 尚・菅原和宏・佐野聡哉

◆背景・目的

琵琶湖の漁場環境の動向を把握するため、1915年(大正4年)から水象と水質の定期観測を実施している。

◆成果の内容・特徴

- 彦根港沖と安曇川河口を結んだ直線上に5つの定点をもうけて、毎月1回、水温、透明度、プランクトン沈殿量、DO、栄養塩等の分析を行った。(資料編参照)
- 5地点の平均表層水温は5月を除いて平年値を上回った状態で推移した。7月には平年値を2.5℃上回った(図1)。
- 全層循環は2月18日の調査で確認された。全層循環の確認は例年と同時期であったが、水温躍層の下降が平年に比べ遅れた。この結果、Stn.4のDO量は11月の20mで6.29mg/L、12月の30mで6.85mg/Lと平年値と比較して低い値を示した(図2)。
- Stn.4の底層DO量は、4月は平年値を上回ったが5月以降平年値を下回り11月には4.07mg/Lまで低下した後徐々に増加し、2月には平年値を上回るまでに回復した。
- 5地点の平均透明度は4.8~9.8mで推移した。6月を除いて平年値を0.1~4.5m上回った。特に、8月は4.5m、9月は3.9mも平年値を上回った。

◆成果の活用・留意点

琵琶湖の漁場環境の動向を長期的に把握するため、今後も継続して定点定期観測を実施していく必要がある。

